

ペテロの後の書

第一章

一 イエス・キリストの僕また使徒なるシメオン・ペテロ、書を我らの神および救主イエス・キリストの義によりて、我らと同じ貴き信仰を受けたる者に贈る。二 願はくは神および我らの主イエスを知るによりて、恩恵と平安と汝らに増さんことを。三 キリストの神たる能力は、生命と敬虔とに係る凡てのものを我らに賜へり。是おのれの榮光と徳とをもて召し給へる者を我ら知るに因りてなり。四 その榮光と徳とによりて我らに貴き大なる約束を賜へり、これは汝らが世に在る慾の滅亡をのがれ、神の性質に與る者とならん爲なり。五 この故に勵み勉めて汝らの信仰に徳を加へ、徳に知識を、六 知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に敬虔を、七 敬虔に兄弟の愛を、兄弟の愛に博愛を加へよ。八 此等のもの汝らの衷にありて彌増すときは、汝等われらの主イエス・キリストを知るに怠ることなく、實を結はぬこと無きに至らん。九 此等のもの無きは盲人にして遠く見ること能はず、己が舊き罪を潔められしことを忘れたるなり。一〇 この故に兄弟よ、ますます勵みて汝らの召されたること、選ばれたることを堅うせよ。若し此等のことを行はば躓くことなからん。一一 かくて汝らは我らの主なる救主イエス・キリストの永遠の國に

入る恩恵を豊に與へられん。一二 されば汝らは此等のことを知り、既に受けたる眞理に堅うせられたれど、我つねに此等のことを思ひ出させんとするなり。一三 我は尚この幕屋に居るあいだ、汝らに思ひ出させて勵ますを正當なりと思ふ。一四 そは我らの主イエス・キリストの我に示し給へることく、我わが幕屋を脱ぎ去ることの速かなるを知ればなり。一五 我また汝等をして我が世を去らん後にも、常に此等のことを思ひ出させんと勉むべし。一六 我らは我らの主イエス・キリストの能力と來りたまふ事とを汝らに告ぐるに、巧なる作話を用ひざりき、我らは親しくその稜威を見し者なり。一七 いとも貴き榮光の中より聲出でて「こは我が愛しむ子なり、我これを悦ぶ」と言ひ給へるとき、主は父なる神より尊貴と榮光とを受け給へり。一八 我らも彼と偕に聖なる山に在りしとき、天より出づる此の聲をきけり。一九 かくて我らが有てる預言の言は堅うせられたり。汝等この言を暗き處にかがやく燈火として、夜明け、明星の汝らの心の中にいつるまで顧みるは善し。二〇 なんじら先づ知れ、聖書の預言は、すべて己がままに釋くべきものにあらぬを。二一 預言は人の心より出でしにあらず、人々聖靈に動かされ、神によりて語れるものなればなり。

第二章

一されど民のうちには偽預言者おこりき、その如く汝らの中にも偽教師あらん。彼らは滅亡にいたる異端を持ち入れ、己らを買ひ給ひし主をさへ否みて、速かなる滅亡を自ら招くなり。二また多くの人かれらの好色に隨はん、之によりて眞の道を譏らるべし。三彼らは貪慾によりて飾言を設け、汝等より利をとらん。彼らの審判は古へより定められたれば遅からず、その滅亡は寝ねず。四神は罪を犯しし御使たちを赦さずして地獄に投げいれ、之を黒闇の穴におきて審判の時まで看守し、五また古き世を容さずして、ただ義の宣傳者なるノアと他の七人とをのみ護り、敬虔ならぬ者の世に洪水を來らせ、六またソドムとゴモラとの町を滅亡に定めて灰となし、後の不敬虔をおこなふ者の鑑とし、七ただ無法の者ども好色の擧動を憂ひし正しき口トのみを救ひ給へり。八この正しき人は彼らの中に住みて、日々その不法の行爲を見聞して、己が正しき心を傷めたり。九かく主は敬虔なる者を試煉の中より救ひ、また正しからぬ者を審判の日まで看守して之を罰し、一〇別けて、肉に隨ひて、汚れたる情慾のうちを歩み、權ある者を輕んずる者を罰することを知り給ふ。この曹輩は膽太く放縱にして、尊き者どもを譏りて畏れぬなり。二御使たちはかの尊き者どもに勝りて、大なる權勢と能力とあれど、彼らを主の御前に譏り訴ふることをせず。三然れ

ど、かの曹輩は恰も捕へられ屠らるるために生れたる辨別なき生物のごとし、知らぬことを譏り、不義の價をえて必ず亡ざるべし。三彼らは晝もなほ酒食を快樂とし誘惑を樂しみ、汝らと共に宴席に與りて、汚點となり瑕となる。四その目は淫婦にて満ち罪に飽くことなし、彼らは靈魂の定らぬ者を感し、その心は貪慾に憤れて呪詛の子たり。五彼らは正しき道を離れて迷ひいで、ベオルの子バラムの道に隨へり。バラムは不義の報を愛して、一六その不法を咎められたり。物言はぬ驢馬、人の聲して語り、かの預言者の狂を止められたるなり。一七この曹輩は水なき井なり、颯風に逐はるる雲霧なり、黒き闇かれらの爲に備へられたり。一八彼らは虚しき誇をかたり、迷の中にある者どもより辛うじて遁れたる者を、肉の慾と好色とをもて感し、一九之に自由を與ふことを約すれど、自己は滅亡の奴隸たり、敗くる者は勝つ者に奴隸とせらるればなり。二〇彼等もし主なる救主イエス・キリストを知るによりて、世の汚穢のがれしものち、復これに纏はれて敗くる時は、その後の状は前よりもなほ惡しくなるなり。三義の道を知りて、その傳へられたる聖なる誠命を去り往かんよりは寧ろ義の道知らぬを勝れりとす。三悛諺に「犬おのが吐きたる物に歸り來り、豚身を洗ひてまた泥の中に轉ぶ」と云へるは眞にして、能く彼らに當れり。

第二章

一愛する者よ、われ今この第二の書を汝らに書き贈り、第一なると之をもて汝らに思ひ出させ、その潔よき心を勵まし、二聖なる預言者たちの預じめ云ひし言、および汝らの使徒たちの傳へし主なる救主の誠命を憶えさせんとす。三汝等まつ知れ、未の世には嘲る者嘲笑をもて來り、おのが怒に隨ひて歩み、四かつ言はん、主の來りたまふ約束は何處にありや、先祖たちの眠りしうち、萬のもの開關の初と等しくして變らざるなり』と。五彼らは殊更に次の事を知らざるなり、即ち古へ神の言によりて天あり、地は水より出で水によりて成立ちしが、六その時の世は之により水に淹はれて滅びたり。七されど同じ御言によりて今の天と地とは蓄へられ、火にて焼かれん爲に、敬虔ならぬ人々の審判と滅亡との日まで保たるるなり。八愛する者よ、なんぢら此の一事を忘るな。主の御前には一日は千年のごとく、千年は一日のごとし。九主その約束を果すに遅きは、或人の遅しと思ふが如きにあらず、ただ一人の亡ぶるをも望み給はず、凡ての人の悔改に至らんことを望みて汝らを永く忍び給ふなり。一〇されど主の日は盗人のごとく來らん、その日には天とどろきて去り、もろもろの天體は焼け崩れ、地とそこの中にある工とは焼け盡きん。二かく此等のものはみな崩るべければ、汝等いかに潔き行状と敬虔とをもて、三神の日の來るを待ち之を速かにせん

ことを勉むべきにあらずや、その日には天燃え崩れ、もろもろの天體焼け溶けん。三されど我らは神の約束によりて、義の住むところの新しき天と新しき地とを待つ。一四この故に愛する者よ、汝等これを待てば、神の前に汚點なく瑕なく安然に在らんことを勉めよ。一五且われらの主の寛容を救なりと思へ、これは我らの愛する兄弟パウロも、その與へられたる智慧にしたがひ曾て汝らに書き贈りし如し。一六彼はその凡ての書にも此等のことに就きて語る、その中には悟りがたき所あり、無學のもの心の定らぬ者は、他の聖書ののごとく之をも強ひ釋きて自ら滅亡を招くなり。一七されば愛する者よ、なんぢら預じめ之を知れば、慎みて無法の者の迷にさそはれて己が堅き心を失はず、一八ますます我らの主なる救主イエス・キリストの恩寵と主を知る知識とに進め。願はくは今および永遠の日までも榮光かれに在らんことを。